

## 第4章 聖化

□はじめに・・・ 聖化について、次のアウトラインにより学んでいます。

### 1. 「聖化」の意味

聖化に関連する9つのギリシヤ語が使われている箇所を見ると、「聖化」の基本的意味は、「別に取り分けること」であると、わかります。日本語聖書で「聖化」ではなく、「聖別」とも訳されるのは、そのためです。

### 2. 「別に取り分けること」の8つのパターン

誰が（何が）、誰を（何を）、別に取り分けるのでしょうか。  
聖書では、8つのパターンがあります。

### 3. 「聖化」はどのようにして起きるのか 5つ

8つのパターンのうち、この学びで対象とするのは、神が信者をこの世とは別に取り分けてくださるパターンです。神学では、これを「聖化」と呼びます。それはどのようにして起きるのでしょうか。まず、信者が自分の清潔さや正しい行いに立たず、イエス・キリストにあるという地位に立つことです。このことをはじめとして、5つのことがポイントとなります。

### 4. 「聖化」の主体・動因・経路

前の「3.」では、聖化がどのようにして起きるのか、5つのポイントがありました。ここでは、聖化について、あらためて、主体、動因、経路の3つの局面から見ます。聖化は、①三位一体の神が主体となって起きることです。②神が働かれるとき、それは神の良きみところから発するものです。③聖化は聖書に記された神の言葉を通して行われます。

聖化の主体は三位一体の神、動因は神の良きみところ、経路は神の言葉、です。

### 5. 「聖化」のタイプ 4つ

聖書は、聖化のタイプが4つあることを教えています。

- (1) 人を信者に導くための聖化
- (2) その人を神の目から見て、すでに完全に聖いという地位を与える聖化。この地位は、信者となった瞬間に与えられます。
- (3) 信者の内側をその地位にふさわしい者へと変えていく聖化
- (4) その人の内側から罪の存在そのものをなくしてしまう、そしてその体にも罪の影響を全く残さない聖化。これは、最終的聖化、あるいは栄化と呼ばれます。

## 第2節 「別に取り分けること」の8つのパターン

1. 誰かを、または何かを、別に取り分けられたもの（聖い）と表現する用法
  - (1) ギハギオス 聖別された、聖い（人、物） → 「聖徒」
  - (2) I コリ 1 : 2 「聖徒として召され、キリスト・イエスにあつて聖なるものとされた方々へ」・・・「聖なるものとされた方々」・・・聖別された人々（聖別するギハギアゾウの受け身の完了形、those having been sanctified）、この世から取り分けられた人々
  - (3) よつて、聖い人たち=聖徒たちとは、「キリスト・イエスにあつて聖なるものとされた人々」、すなわち、「この世から取り分けられた人々」である。
  
2. 神が、ご自身を聖別する
  - (1) レビ 21 : 8 「あなたがたを聖別する主、わたしが聖であるから」・・・直訳「あなたがたを聖別する主、わたしは自分を聖別するから」
  - (2) メシアも、ご自身を聖別する（ヨハ 17 : 19）
  
3. 神が、ある人を聖別する
  - (1) 父なる神は、子なる神を聖別する（ヨハ 10 : 36）。
  - (2) 神は、祭司を聖別する（出 29 : 44）。
  - (3) 神は、イスラエルを聖別する（出 31 : 13）。
  - (4) 神は、信者を聖別する（I テサ 4 : 3 「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです」・・・直訳「神のみこころは、あなたがたの聖別です」）

この学びの対象の「聖化」
  
4. 神が、ある時期、場所、物を聖別する
  - (1) 神は、第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた（創 2 : 3）。
  - (2) 神は、会見の天幕の入口を、神の栄光によって聖とされた（出 29 : 43）。
  - (3) 神は、会見の天幕と祭壇を聖別した（出 29 : 44）。
  
5. 人が、神を聖別する
  - (1) マタ 6 : 9 「御名があがめられますように。」→直訳「あなたの名が聖別されますように」
    - ① 神の名は「ヤハウエ」。ユダヤ人たちは、十戒の「あなたの神の、ヤハウエの

御名を、みだりに唱えてはならない」に従い、その名はもちろん、「神」ということばすら口にするのを避けた。そして、神を指すときには、「あのお名前」とか、「いと高き方」などの表現を使った。

② 「あなたの名が聖別されますように」とは、信者が「自分の生活の中で神を聖別します」という祈りである。これは、信者が神を清くするというのではない。「聖別する」とは、「別に取り分ける」ことである。信者が、自分の生活の中で、神をこの世の事柄と同列に置くようなことはせず、神を特別な存在として位置づけますから、どうかそのようにさせてください、という祈りである。

(2) Iペテ3:15 「心の中でキリストを主としてあがめなさい(聖別しなさい)」・・・ここでは、父なる神を聖別するのと同様に、メシアを聖別するように、信者は勧められている。

聖化を受けるとき、信者も自らを聖別する

#### 6. 人が自分を聖別する

- (1) ロマ12:1・・・信者は、自分のからだを、神のみこころのままに用いていただくように差し出す。このとき、信者のからだは、神に喜ばれる、聖い、生ける犠牲である。この犠牲をささげることは、新約時代の信者にとって、霊的な(ギ)ロギコス(理にかなった)礼拝である。
- (2) IIコリ7:1 「いっさいの霊と肉の汚れから自分をきよめ(ギ)カサリゾウ」
- (3) IIテモ2:21 「だれでも自分自身をきよめて(ギ)エクカサイロウ・・・聖められたもの(別に取り分けられたもの)」

#### 7. 人が、他の人や物を聖別する

- (1) 出19:14 「(モーセは)民を聖別し、彼らに自分たちの着物を洗わせた」
- (2) II歴29:17 「(祭司たちは)八日間にわたって主の宮を聖別した」
- (3) Iコリ7:14 「信者でない夫は妻によって聖別されており」・・・この聖別されているとは、救われていることではない(参照 Iコリ7:16「妻よ。あなたが夫を救えるかどうか、どうしてわかりますか」)

#### 8. ある物が、他の物を聖別する。聖い物は他の物を聖別できる

- (1) マタ23:17「黄金と、黄金を聖いものにする神殿」
- (2) ダニエル書5章の実例 主の宮の金の器